

第百八十五回
国会

参議院議院運営委員会会議録第十五号

平成二十五年十二月五日(木曜日)
午後八時四十二分開会

反対の立場から、大きな義憤を持って意見を述べさせていたのだと思います。

本日の特定秘密保護法案を審議する参議院の国家安全保障に関する特別委員会、与党は、質問時間の最中に動議を提出し、質疑を打ち切つて採決を強行する暴挙に出ました。民主主義を踏みにじる行為であり、断固抗議をいたします。本日に特定秘密保護法案を本会議で強行するなど、絶対に許せる行為ではありません。議会制民主主義の歴史に汚点を残すことは必至であります。

民主党は、本日、海江田代表を始めとする衆議院議員の同僚が、東京都内の街頭で特定秘密保護法案の慎重審議を訴えておりました。ところが、まさにその時間、午後四時過ぎ、参議院の特別委員会で質疑を打ち切つて強行採決が行われたのであります。

国会は、国民の代表が徹底的に議論し、時が至れば採決をして決めるという、当たり前のことではあります。しかし、この法案は、衆議院でも強行採決がされており、今回の審議は、衆議院で四十五分間五分行われました。これも不十分極まりない時間でございますが、参議院では何と二十時間にも満たない審議時間しか確保されず、強行採決されたことは言語道断と批判せざるを得ません。

政府は、なぜ法案の成立を急ぐのか。国民の懸念や不安が政府への疑念に変わっていることへの所見、民間人に対する適性評価の内容や結果による不利益取扱いをどう防止するかなどといった点について明快なる御所見が示されておられません。十月十五日に総理の所信表明演説がありましたが、その中で総理は特定秘密保護法について一言も触れていないではありませんか。唐突に特定秘密保護法案が出され、拙速に成立をさせようとする政府・与党の取組は納得できません。市長として地方議会を見てきた、そして衆議員

○野田国義君 民主党・新緑風会の野田国義でございます。
ただいま動議が出されました件につきまして、

として、参議員になつてから、これほど横暴な委員会運営は初めての経験であります。今回の採決は無効であり、認められません。こんな不正常的な行為が正式な議決事項であると認められるならば、参議院における憲政史上に汚点を残すことになりません。

さらに、民主党議員が委員長を務める内閣委員会と経済産業委員会それぞれ審議する国家戦略特区法案と独占禁止法改正案の早期採決のため、四日夜に両委員長の解任決議が提出され、二人の委員長を与党議員にすげ替える、なりふり構わぬい手法が取られました。

民主党・新緑風会は、先輩方が積み上げてきた我が国の議会制民主主義の精神を守り、良識の府としての議会運営に全力を傾注してまいりました。また、かつての自民党においては、議会運営、国対の神様として今でも語り継がれている竹下元総理の心ある根回しによる議会運営を今与党の諸君は見習うべきではないでしょうか。

とりわけ、議院運営委員会は、一党一派に偏ることなく、各会派の主張に十分耳を傾け、公正中立の立場から円滑な議事運営に当たることが求められております。今般のこそくでかつ乱暴な議会運営は、参議院に対する有権者の期待を裏切るだけではなく、政治そのものに対する国民の不信感を高めるだけでもなく、そのおごり、高ぶりに対しては必ずやしつべ返しに国政において来るものと私は確信をいたすところであります。

強い怒りを持って、この度の特定秘密保護法案への強行採決を始めとする議会制民主主義を踏みにじる議事運営に対して反対の意見表明とさせていただきます。国民は怒っている。